

# 第一回

## 防災活動事例発表会

日時 平成 25 年 3 月 24 日 (日)

時間 午後 1 時 30 分 ~ 5 時

会場 長岡市消防本部庁舎 4階  
ながおか市民防災センター 2階

主催

中越市民防災安全士会  
(社)中越防災安全推進機構  
長岡市危機管理防災本部

アンケートの協力をお願い

※ 配布の「防災事例発表会アンケート」は第一部終了後、お帰りの際に提出をお願いいたします。

## プログラム

### 第1部（13:30～15:30） 長岡市消防本部庁舎 4階大会議室

#### 1. 開会挨拶

中越市民防災安全士会 会長 畔上 純一郎

#### 2. 事例発表

(1)「私たちの町は私たちが守ろう！」…………… P1～

横枕町町内会・自主防災会 会長 本多 実 様

(2)「新興住宅地における顔の見える地域防災活動の秘密」…………… P8

中興野地区自主防災会 事務局長 鈴木 安博 様

(3)「連合町内としての防災組織立上げ事例」…………… P9～

24年度 前川地区協議会 会長 岸 和義 様

(4)「自分たちの家族やまちは 自分たちで守ろう！」…………… P18～

日越地区防災安全士会 会長 長谷川 弘二 様

#### 3. 全体講評

長岡造形大学 准教授 澤田 雅浩 様

#### 4. 閉会挨拶

長岡市危機管理防災本部 特命主幹 中村 英樹

( 休憩及び会場の移動 )

### 第2部（16:00～17:00） ながおか市民防災センター 2階研修室

#### 1. 発表者ブースに分かれフリートーキング

4グループに分かれて、発表内容や自分達の悩みを話し合う

#### 2. まとめの発表……各グループ

#### 3. 閉会の挨拶……中越市民防災安全士会 副会長 椋沢 政晴

お忘れ物のないよう、また、交通事故等に気を付けてお帰りください。

本日はありがとうございました。

平成25年3月24日

# 私たちの町は 私たちが守ろう！



## 横枕・鷺巣自主防災会

本多 実（横枕町内会長・自主防災会長）

町名 長岡市横枕町、鷺巣町

位置 長岡の東南、宮内地区、石坂小学校区

(お福酒造、定正院（お寺）、

グリーンヒルゴルフ場入口)

世帯数 108戸

人口366人

班数11班

(横枕町 69戸 221人 6班)

(鷺巣町 39戸 145人 5班)

設立 平成20年7月



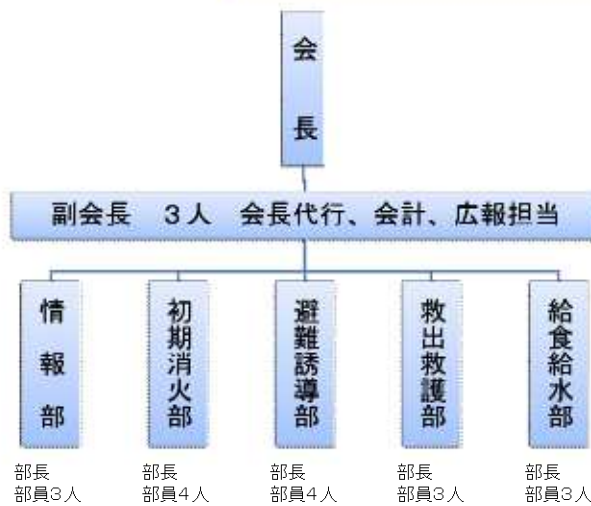
## 防災機械器具倉庫

設置場所 横鷺公民館前

機械器具 テント、発電機、投光器、タンカ、車いす、リヤカー、  
工具、救急セット、ストーブなど



## 自主防災会の組織



## 各部の役割

### 情報部

- ・本部と打ち合わせをし、状況を把握して住民に適宜情報を伝える。
- ・情報収集は、本部と連絡を密にして行動する。



### 初期消火部

- ・初期消火活動を行う。
- ・消火器による消火訓練、バケツリレーなど。
- ・火災予防を呼びかける。  
消火器、報知機の普及、義務化など。
- ・プロパンガス、灯油タンク、ストーブ、電気など充分注意する



### 避難誘導部

- ・各班の避難場所を把握する。
- ・高齢者、要援護者の避難誘導は優先して行う。
- ・要援護者の名簿は本人の了解を得て作成する。



### 救出救護部

- ・体の不自由な人や高齢者の救出救護は優先して行う。
- ・けが人の応急手当、救命蘇生法、AEDなどを行う。
- ・車いす、タンカ、医薬品などは常に点検する。



### 給食給水部

- ・水、食料品などの確保、調達方法を検討する。
- ・家庭での非常時持ち出し品などの準備や必要性を呼びかける。

**自主防災会は、災害に備えるとともに、災害が起きた時は町内住民の安全を確保するために協力して活動する。**

#### 災害が起きたら

- ・役員は、迅速に公民館前資材倉庫に集合する。
- ・災害本部を設置する。対策会議。
- ・情報収集（テレビ、ラジオ、ネット、行政機関など）する。
- ・町内の状況を把握する。（被害、人員安否確認、特に高齢者、要介護者の状態等）
- ・住民は、連絡員の指示のもと各班の避難場所に集合する。
- ・各班の連絡員は、班の状況を本部に報告、相談する。

#### 風水害について

- ・新聞、テレビ、ラジオなどの気象情報、災害情報などを参考に  
して、行動する。
- ・普段より川、土砂災害の危険箇所を点検する。
- ・機械器具の点検や土のうの準備をする。

**行動、活動は安全第一  
無理はしない。**

## 訓練の概要

平成20年12月7日(日) 8:00~11:00

参加者115人、役員15人

◎避難訓練 防災用機械器具などの見学、説明



平成21年6月21日(日) 1:00~3:00

参加者48人、役員19人

◎心肺蘇生法、AED講義、講習

平成22年6月27日(日) 8:00~10:00

参加者106人、役員22人

◎初期消火訓練 火災予防講座



平成23年6月26日(日) 8:00~11:30

参加者96人、役員24人

◎避難誘導、救護、炊き出し訓練

平成24年8月19日(日) 8:30~11:00

参加者55人、役員26人

◎救急蘇生法、AED・応急手当



平成22年8月

◎石坂地区総合防災訓練参加

平成24年5月

◎宮内中学校防災訓練見学



想定:平成23年6月26日(日)朝7:50頃 地震発生 横枕町、鷺巣町に避難指示発表

## 避難誘導・救出救護・炊出し訓練

8:00 役員公民館前に集合 災害本部設置

- ・テント張り、機械器具の点検
- ヘルメット、腕章、名札着用



8:30 各部準備

- ・タンカ、車いす、リヤカー、
- 三角巾、救急セット、炊出し用品



9:00 住民は各班の避難場所に集合

- ・各班の連絡員は、被害状況を本部に報告（人員、けが人など）
- ・住民を公民館に避難誘導する。  
（連絡員、役員）
- ・搬送 車いす1人、リヤカー2人、  
タンカ1人
- ・連絡員は再度点呼して本部に  
報告する。



10:00 訓練 応急手当 三角巾  
（止血、骨折、腕吊りなど）、  
タンカの作り方



11:00 食事 おにぎり、みそ汁

11:30 訓練終了 反省会

## 今後の課題

- ・小中高生の訓練参加について
- ・夜間の訓練について
- ・非常時の持ち出し品
- ・家庭内の連絡方法について
- ・AED設置の件
- ・地元企業との連携

平成16年10月23日（土）  
中越大震災被害状況

- ・世帯数 94戸
- ・住家 半壊、大規模半壊 85棟
- ・電気、上下水道などのライフラインの被害
- ・道路の被害、マンホール隆起
- ・けが人 2人（軽傷）

- ・避難世帯数 23戸
- ・住宅の新築 34戸
- ・転出者数 4戸
- ・転入者数 18戸

（平成20年1月）





平成25年3月24日

ご静聴ありがとうございました



**横枕・鷺巣自主防災会**  
本多 実（横枕町内会長・自主防災会長）

## 中興野地区防災組合

地域の概要

組織体制について

防災倉庫について

情報伝達について

防犯の取り組みについて

防災マップの取り組みについて

# 連合町内 防災組織立上げ事例

活動期間:平成24年1月～12月

## ◆対象町内:前川地区4町内

(長岡市前島町、青島町、上前島町、青山町)

## ◆発表者:岸和義

(平成24年度前川地区協議会長、安全士会会員)

平成25年3月24日 於 長岡市消防本部庁舎

<主催> 中越市民防災安全士会 自主防災会支援部  
中越市民防災安全推進機構、長岡市危機管理防災本部

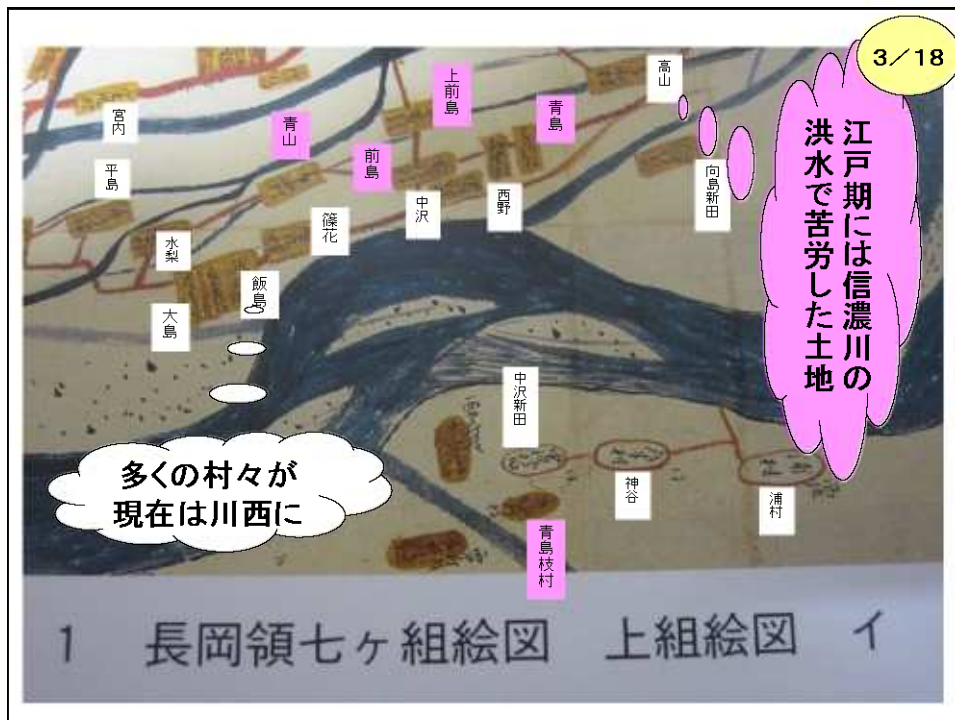
## 1、前川地区紹介



### 歴史

- ①河井継之助開戦決意の碑(前島町)
- ②木喰上人作木像三十六体外(上前島町)

- ・前川駅、前川小学校を挟み、4町内で前川郷を形成
- ・世帯数450、人口1400人 宮内コミセン、宮内中学区所属
- ・農村地帯→南部工業団地、前川東ニュータウンで変化中
- ・長岡駅から6Km、宮内駅から3Km、越路インタから3Km



4 / 18

## 2、従来の前川地区の防災組織

町内単位の活動に留まり、連携は無かった

- ①町内会長が自主防災会長で毎年交代
- ②各町内の防災活動もマンネリ気味
  - ・訓練は防火、消火にかたよる
  - ・共通して要援護者対応や避難訓練に課題

### 3、中越大震災への対応

「前川協議会」が機能し、避難所運営できた

- ① 3つの町内から約400名が小学校に避難
- ② 避難所運営の主体は「前川協議会」役員
  - ・協議会＝4町内会長、4農区長など15名構成
- ③ 収容しきれず、町内として避難したり車中避難も
- ④ 事後に連合防災組織必要との声あがるも……

### 4、前川地区の防災組織の課題

中越～の成功体験が新時代対応の組織編制を阻む

- ① 「前川協議会」役員も毎年交代し、継続性に難
- ② 意識の底にある「地震くらい何とかなる」
- ③ 町内単位の防災活動が免罪符？
  - ・防災庫がある、市へ活動報告もしている……

教訓

一般住民からは防災問題の  
打ち上げは出て来にくい

## 5、連合組織編制のきっかけ

防災大学受講と「防災センター」指定が連合化の後押し

- ①発表者がH23年に防災安全大学受講、その中で、他地域の防災活動や市の「広域化が課題」を知る。
- ②H24年4月に前川小学校が指定避難所から  
**地区防災センターに変更格上げされる。**  
・防災センターに関する行政からの説明なし・・・自分で！

教訓

行政が展開している防災関連の施策を読み取り、利用

## 6、連合した防災組織を提案

協議会の年度方針に「連合防災組織編制」をうたう

- ①年初の協議会会合で**連合組織の必要性**、組織機能、組織編制のための手順を示す。(次ページ)
- ②納得を得るために現状を理解する学習機会を設ける
- ③完成まで3カ年を想定、一歩ずつ進める  
(次々ページ)

**災害に備えのある地域造りをめざして**

平成24年1月26日

協議会長

9 / 18

**1、前川地区は安全か？**

- ・先人は豪雪や信濃川の氾濫と闘ってきた。  
現在は無雪に近い道路環境  
強靱な信濃川堤防に守られている
- ・中越地震では地域の結束が確認された。  
小学校体育館での避難所生活  
地盤的に比較的強固である

協議会役員会資料

**2、新しい災害への備えの必要性**

- ・**中越地震は免罪符にならず**  
長岡は大地震のリスクが高い  
(阪神大震災の様な直下型地震を新  
潟市/沖から小千谷市までの約83%)
- ・**異常豪雨の多発**  
市発行のハザードマップによれ
- ・**原発事故への備え**  
長岡は柏崎から20キロ  
何れ避難に関するプログラム作

**3、地域を守る力「消防団・自主防災隊**

- ・自助と共助のバランス  
災害直後の安全性は「自助  
共助の強化が災害弱者を救
- ・行政(公助)と個人(自助)をつ  
組織が無ければ情報(個人、
- ・連携(前川全体)による自主防  
他の組織ならびに、中学校  
日常生活への防災活動動と
- ◎大きな変化点として  
①青山新町、ドリームタウン出現  
②高齢化により増加すると見

**4、前川自主防災組織への期待**

- ・大災害発生時の救助・救出ならびに速やかな避難行動引率など緊急時活動取決め  
(災害規模が大きくなるほど行政対応は遅くなる。それを補完するのが自主防組織)
- ・地域の実情を把握し、的確な防災対策のあり方を行政に提案する能力  
(実態にあった指定避難所利用のあり方/信濃川堤防破壊時のシミュレーション実施)

**5、前川地区としての連合防災組織の役割～仮に組織化するとして何をするか**

- ・地域に存在するリスクの点検、災害発生時の被害の可視化、シミュレーション
- ・地域で援助必要な人がどこにいて、誰がサポートすることになっているかの明確化
- ・地域の防災に関係する人材を育て組織を強固にする
- ・災害発生時の活動内容を明確にする。各家庭、班長、町内会長、消防団、学校
- ・活動のためのハード、ツールの整備  
平常時における教育啓蒙～自分で守る領域 / 町内の防災庫の充実
- ・活動のためのソフトの準備としての組織、情報伝達  
行政との連携 / 隣接町村との連携 / 簡易避難訓練

**6、前川地区協議会での「前川自主防災会」組織編制の手順**

	1～2月	3～4月	5～6月	7～8月	9～10月	11～12月
協議会	組織化提起	学習会	学習会	組織化検討	9月初期組織化	
町内		町内点検、意見集約		消防と相談		来年度計画

組織のたたき台 = 協議会の付属機関として事務局を1～4名置き、任期を3年程度にする。  
あるいは、協議会と同列に前川自主防災会を作る

**町内ならびに前川地区における自主防災機能整備計画 ～ 中期的観点**

10 / 18

	青山町内会	前川地区
<b>年間目標</b>	①自主防組織を固める。 ②大勢の意見をとり入れた活動計画を策定し、実行する。 ③自助対応事項を理解してもらい備蓄、家庭内防災を推進する	①前川地区の自主防災組織、機能の課題を整理する ②前川としての自主防災組織を作る。運営方針、役割含む。 ③小学校と地域の連携を確認する。
<b>平成24年</b>	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
<b>平成25年</b>	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
<b>平成26年</b>	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

## 7、地区防災センター“指定”機会を利用

### 地域が連携せざるを得ない事を理解する

- ①市、危機管理防災本部に出前説明会を依頼
  - ・指定避難所と防災センターの違い。センターのあるべき姿
  - ・小学校、協議会、消防団、センター職員一緒に学習
- ②三位一体で「避難所運営委員会」立上げ必須である事を理解。推進主体は地域であること判明！

教訓

防災センター機能整備は待っていても何も始まらない。

## 8、「避難所運営委員会」立上げ

### 3ヶ月(9月～11月)で委員会機能整備、規程作成

- ①行政が防災センターに求める機能、役割を確認
- ②3回の会合で、委員会規程、委員会内の部門機能(平常時ならびに災害時)設定。マニュアルイメージ共有。
- ③防災センター(小学校)配備済みの備品、機材を現地確認。

ミン

災害時に行政が主導する業務と地域主体業務とを切り分ける。



避難所運営委員会 運営規約(案～第3稿)		13 / 18
(名称)	第1条 この会は前川地区避難所運営委員会(以下避難所運営委員会)という	
(目的)	第2条 この会は災害発生時における避難所としての前川地区防災センター(以下防災センター)を整然、円滑に運営する事により、避難住民に安全を提供する事を目的とする。	
(運営委員)	第3条 この会は次における運営委員で構成する。 (1)前川地区防災対策委員会メンバー＝地域住民の代表者(9名) 「前川地区防災対策委員会」は前川地区連絡協議会内に設置された委員会であり、9名とは4町内会長、4町内からの各1名のサポートメンバーならびに前川消防団リーダー1名。 (2)前川小学校校長ならびに教頭＝施設管理者(2名) (3)防災センター長ならびに副センター長＝長岡市で任命した市職員(2名)	
(役員、部長)	第4条 この会に次の役員、部長を置く (1)会長・・・前川地区協議会(以下協議会)の会長がこの委員会の会長に就く。 (2)副会長(2名)・・・1名は協議会の会計担当、もう1名はサポートメンバーからとする。 (3)第12条に示す事業を統括する7名の部長・・・上記会長、副会長との重任を妨げず、各事業部長は地域住民代表、施設管理者、行政職員から互選で選出されるが、その分担の基本は第12条のとおり。	
(役員、部長の選出)	第5条 役員のうち、会長ならびに副会長の1名は協議会役員就任と同時にその任に就く。また、副会長のうちサポートメンバーからの1名は3年間の任期交代時にあっては年度初回の避難所運営委員会にて選出する。各部会の長も初回の委員会にて互選する。	
(役員、部長の職務)	第6条 ①会長は防災セン	以下省略
		常時並びに災害時に

前川地区防災センター部会機能一覧		14 / 18
		平成24年11月20日
部会	項目	実施事項など
本部	部会目的	・避難所運営の骨格を作る事を主導する ・災害時には会長の指示のもと、総務事務を行う
	①普段の準備	1、避難所における生活ルールを制定する 2、前川全域ならびに行政関係者の連絡網、名簿の整備
	②災害時の役割	1、定期会合を開き、住民側、行政側の情報を整合する 2、避難者(非避難者含め)の実態を把握する 3、避難者の不便、不快、心配を把握し、改善する
施設部	部会目的	・防災センターに配備の設備・備品を管理し、災害時提供を可能とする ・防災センター自身が避難所として安全であることを見極める
	①普段の準備	1、学校に配備の防災関連設備・備品の定期点検 2、災害時飲料水の定期点検(量・質) 3、学校内における立ち入り禁止区域、提供区域の分けと表示準備
	②災害時の役割	1、通信放送設備の管理者としての操作アドバイス 2、災害発生下における学校の安全点検 3、児童生徒の安否確認と授業再開に向けた活動
広報部	部会目的	・避難所ならびに地域の避難、被災状況を市の災害本部に伝える ・市の災害本部からの情報を地域に伝える
	①普段の準備	1、行政が求める災害発生初期の地域の状況掌握方法を整備する 2、避難所での行政からの情報伝達方法を決めておく
市職員	②災害時の役割	1、行政のルールに則り、防災センターの実態をとりまとめ報告する 2、行政からの情報伝達(避難所運営の本部)に伝達する
		以下省略

## 9、前川防災会議の設置

15 / 18

避難所運営委員会は防災センターが舞台

防災センター運営は部分的活動／より重要な普段の備え

- ①4町内の防災力アップのために協議する場が必要
- ②前川防災会議を提唱、H25年7月に初回を予定
  - ・各町内の計画確認
  - ・合同避難訓練協議
  - ・町内間のレベル合わせ
  - ・協力体制探る
- ③町内会長と別に各町内から「防災サポートメンバー」選出、防災会議の推進役を担う。任期は3年間とした。

教訓

継続的に防災力アップを推進する者を配する仕組み。

## 前川防災会議規約（抜粋）

16 / 18

- 1、会議の目的
  - ・前川地区全体(連合地域)の防災力を向上させる事を目的とする
- 2、メンバー
  - ・町内会長ならびに各町内防災サポートメンバー並びに消防団責任者
  - ・必要に応じ、防災センター職員、小学校責任者を会議に招聘する
- 3、事業
  - ①防災に関する情報交換を介して各町内防災力向上の為のフィードバック  
(避難訓練、安否確認ツール・方法、要援護者対応方法など)
  - ②前川としての防災事業の検討、企画ならびに推進  
(避難訓練、講演会、共同防災訓練、啓発活動・・・)
  - ③時流に則した防災課題の研究 ～  
(原発避難のありかた、洪水可能性研究・シミュレーション)
  - ④行政の進める防災活動との整合性確認  
(行政の防災減災の重点施策理解共有)

その後の検討で、保育所との連携を考える・・・

## 10、活動の振り返り

### 2つの エッセンス

防災力向上の必要性の認識が出発点

1年交代の自主防会長を補佐する継続推進者作り

### 良かった点

- ①防災安全大学OBの要所でのサポート
- ②地域活動事例や手引きがネットで簡単入手
- ③1年間で土台づくりと継続活動の仕組完成

### 教訓

- ①歴代責任者(町内、地域)の話を聞く
- ②仕組み作りは8~9割のお膳立てが必要
- ③行政の防災取組みを読取り、形にする

# ご清聴を感謝いたします

発表が全部終わった後、質疑応答の時間が  
ございます。精一杯対応しますので、質問  
のみならず、ご意見を含め頂戴したいと思います。

平成25年3月24日

# 長岡市日越コミュニティ推進会議 活動事例発表

災害に強いコミュニティづくり

自分たちの家族やまちは  
自分たちで守ろう！

日越地区防災安全士会  
会長 長谷川 弘二

1

## 1.長岡市日越地区の概要

明治22年 16字を統合 日本の「日」 越後の「越」から「日越村」が成立  
昭和29年 長岡市と合併  
合併以前は人口4,000人 世帯数650戸の純農村  
現在は人口9,850人 世帯数3,400戸 新旧住民が混在 18町内会で日越連合町内会を形成  
<高齢化率18.6%(市24.5%) 出生率12.1%(市7.9%) 小学生600人>  
平成15年5月「日越コミュニティ推進会議」発足(小学校区単位として)



長岡市:洪水ハザードマップ南西部版より

長岡市 日越地区

2

## 2. 7. 13水害及び中越地震からの教訓

- ・自主防災会や町内組織が機能しなかった。→役割や分担が不明確。  
幸い全壊とか死者・火災等の発生が無かった事から、動きが鈍かった。
- ・避難所がどこか分からなかった。
- ・防災センターと一次避難所の役割が知られていなかった事から、どこの避難所に何人位いるのか分からず、水や食事の事で混乱した。
- ・指定避難所以外(町内の公民館等)に避難したが、そこが大丈夫なのか？
- ・防災センターと各町内(会長)との連絡・連携が出来ていなかった。
- ・避難所の出入り口の鍵の所在が不明で、開けるのに時間を要した。
- ・一人暮らしや高齢者など安否確認が充分だったか。→[安否確認の方法](#)
- ・避難所に発電機などがほしかった。
- ・消防団の広報活動、巡回など非常に心強かった。
- ・混乱と恐怖の中で希薄であった隣近所などコミュニティが充分機能したことは良かった。  
声かけ・安否確認。今後、この隣近所のコミュニティが防災発生時何よりも大切。
- ・地区防災センター長は誰か分かるようにしてほしい。

以上を踏まえて、日越地区では・・・

37

- [1] 各町内で自主防災組織を設立する。(現在18町内会)  
\* 各町内とも年1回位は(町内総会などで)  
役割分担とか 避難所の確認などを実施。
- [2] 地区指定避難所の周知  
各町内は町内ごとに避難所を決め、住民に周知徹底する。
- [3] 各町内会長(又は自主防災会長等)責任者は、直ちに  
コミュニティセンターに集合し、地区本部を開設する。  
情報収集や発信・伝言・防災センターと連携し対応する。

更に、平成19年度からは・・・

38

## [4] 日越地区合同防災訓練の実施(年1回)

自分たちの家族やまちは、自分たちで守ろう！

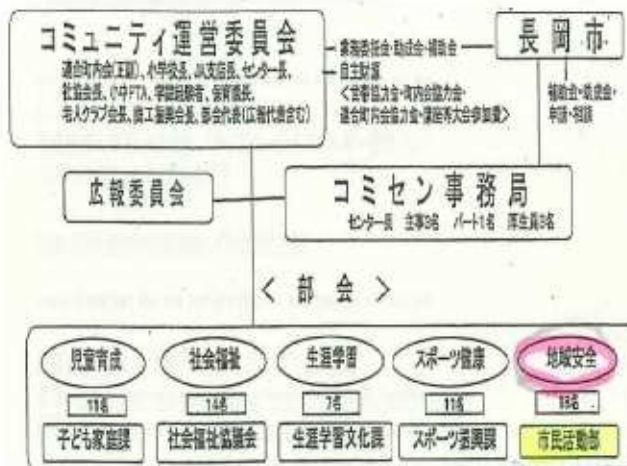
をスローガンに

- 1) 家庭における災害時の「安全点検の日」とする。…自助
- 2) 各町内会、自主防災会組織での持ち場・役割・仕事内容の確認をする。…共助
- 3) 日越小学校にて、合同防災訓練…公助
  - ① 初期の救護、応急手当の訓練、AEDの操作、初期消火活動  
(消防署・消防団及び中越市民防災安全士会)
  - ② 地区防災センターの避難所用設備、備品の確認・点検
- 4) **日越地区防災安全士養成**

39

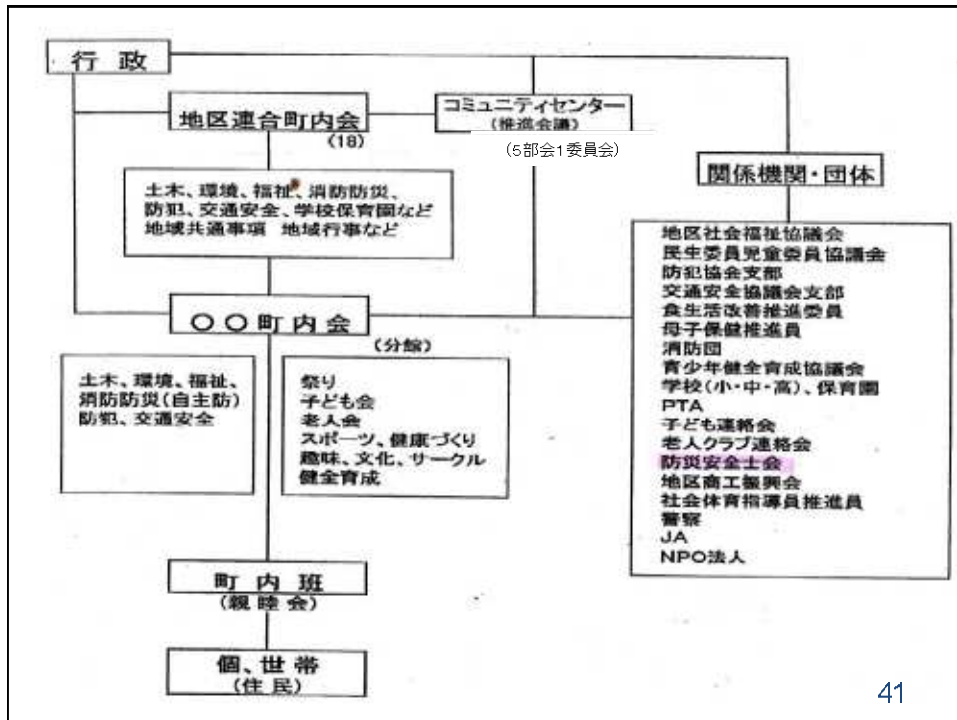
## 3.長岡市 日越コミュニティ推進会議とは…

人口:9,800人 世帯数:4,407



18町内	
町内名	町内名
上の原	七日町
北原	南七日町
上除	福山
日越新町	喜多町
日越台	宝地
北松ヶ丘	高瀬
上除西1	堺
WA日越	雨池
石動	
石動南	

40



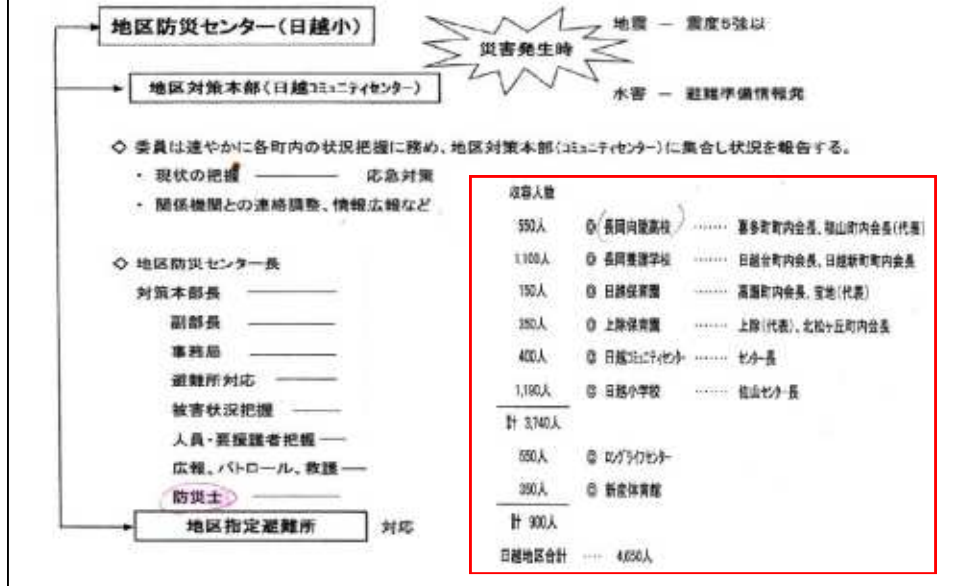
41

## 日越地区災害発生時対応

- ①地震: 震度5強
- ②風水雪害: 避難準備情報発令時



## 4, 地区対策本部の立上げ



## 5, 合同防災訓練の事例紹介

実施計画(平成24年7月22日(日)8:00~12:00)

### 1), 家庭における災害時の[安全点検の日]とする。

\* 災害時の身の安全確保について

(1) 家屋内外の危険個所のチェック

- ・ 出入り口や避難通路の確保
- ・ 落下物の防止
- ・ 家具転倒防止
- ・ その他



自助

(2) 避難に備える。

- ・ 家族の災害発生時の連絡方法と避難場所の確認
- ・ 非常時の持ち出し品
- ・ 火気、電気、ガス等の確認

(3) 近所との協力……声かけ、救助など



## 2)各自主防災会での災害発生時の対応

(時間 8:00~9:30)

- ・防災機材、部品の点検は、事前に実施のこと。
- ・訓練と備品、機材の操作取扱いを実施する。
- ・各町内会、自主防災会は、当日の参加人数の確保と本部への報告



共 助

### (1)各町内会、自主防災会組織での持ち場・役割分担・

#### 仕事の内容の確認をする。

- ・情報収集及び広報
- ・人数、要援護者の把握確認
- ・防犯パトロール
- ・避難誘導
- ・救助及び救護
- ・避難所での衛生管理など

45

### (2)各町内の指定避難所(一次避難所)の確認

指定避難所・・・担当責任者、出入り口の鍵の保管者

- \* 日越小学校(防災センター) 1, 190人
  - \* 日越コミュニティセンター(対策本部) 400人
  - \* 長岡向陵高校 650人
  - \* 長岡養護学校 1,100人
  - \* 日越保育園 150人
  - \* 上除保育園 350人
  - \* ロングライフセンター550人
  - \* 新産体育館 350人
- 収容人員:4, 650人

### (3)町内の災害発生時や避難・安否確認、情報等連絡網

(班単位など・・・)

人数の把握や要援護者、ひとり暮らしの方などへの支援体制について・・・担当者、協力員などの選定

46

- \* (1)、(2)、(3)については、各町内の住民へ周知徹底する。
- \* 各町内に集合の上、指定避難所(日越小学校)に集合する。  
(自主防災の旗を持参) 集合 9:50
- \* 合同防災訓練への参加人数(300人)は、町内割当てとする。
- \* 各自主防災訓練計画書を事前に提出(期限:7月18日まで)



47

## 各町内での自主防災訓練状況-1



48

## 各町内での自主防災訓練状況－2



49

### 3).防災対策本部(地区)開設 (時間 9:00~9:40)

・対策本部会議メンバーは、各町内の状況把握し、**災害報告書**を記入の上、地区対策本部「**日越コミュニティセンター**」に集合

メンバー：・地区防災センター長(正副)      ・各町内会長か自主防災会長(18)  
・地域安全部会の代表(防災・交通・防犯)(4)  
・地区防災安全士(8)                              ・民生児童委員代表(社協)  
・コミュニティセンター長

#### (1)役割分担

- ・会長、副、事務局
- ・各避難所出入り口の鍵保管等
- ・避難所の代表
- ・パトロール
- ・食糧など救援物資など
- ・各関係機関との連絡調整
- ・情報収集、伝達、広報
- ・避難所との連絡、巡回など
- ・要支援介護者(人数把握など)
- ・ボランティアの要請対応

50

#### 4) 合同訓練 (時間 10:00~11:50) 於:日越小学校

##### ・朝、消防団の広報車による広報活動

各町内参加者は、9時50分までに日越小学校集合、  
参加人数の報告をする。

##### (1) 初期の救護、応急手当の訓練 (時間 10:00~11:30)

(地元消防団・中越市民防災安全士)

AEDの操作(消防署本部)、初期消火訓練

(内容については消防署・消防団・関係機関で相談し決定)

##### (2) 地区防災メンバーで防災センターの避難所用設備、

備品等の確認及び点検

(時間 10:00~10:30)

51

### 平成24年7月22日(日)日越小学校9:42集合



18町内 参加数約400名

町内名	人数	町内名	人数	町内名	人数	町内名	人数	参加団体	人数
上の原	15	北松ヶ丘	20	七日町	15	高瀬	10	小学生	20
北原	15	上除西1	20	南七日町	30	堺	15	中学生	20
上除	45	WA日越	20	福山	10	雨池	10	消防団	30
日越新町	10	石動	10	喜多町	30				
日越台	15	石動南	5	宝地	20				

52

## 初期消火訓練実施状況

各町内集合状況



主婦による消火訓練



小学生による消火訓練

53

## 初期救護・応急手当訓練実施状況

AED操作説明 石黒中越市民防災安全士



AED操作及び心肺蘇生法を行う中学生



54

# 平成24年度から取り入れた、合同訓練等実施報告書

各自主防災会代表は、災害の状況第1報を把握記入し、対策本部へ提出

## 18町内

町内名	町内名
上の原	七日町
北原	南七日町
上除	福山
日越新町	喜多町
日越台	宝地
北松ヶ丘	高瀬
上除西1	堺
WA日越	雨池
石動	
石動南	

## 日越地区災害報告書

町名	報告者
災害種別 (避難状況)	
支援や 要望事項	
ボランティア 観音状況	(有、無)
道路	
河川	
家屋	
水道	
電気	
ガス等	

55

# 6. 家族地震防災計画 (日越地区全戸配布)

### 家族地震防災計画

#### 自分の身は自分で守ろう

**① 地震に備けたい家族を守る「安全な家」**

1. 「対策の準備」を怠らぬこと
2. 「家具の固定」を徹底して行うこと
3. 「地震の中での行動」を練習すること

**② 地震を乗り越える準備をしよう**

**「家族防災会議」で対応を出そう。**

1. 家族の話し合い
2. 避難場所の決定
3. 避難経路の確認

**③ 地域みんなで助かるために**

1. 避難所を探しておく
2. 地域の防災力を高める

**家族の防災三箇条**

1. 家が倒れず
2. 道路に障害がつかず
3. 災害が起きたら逃げやすくなる

#### ケラリどころでもあわてず

**① 家にいたら**

1. 床の下の家具を倒さない
2. 戸口を開けて出口を確認
3. 火災警報が鳴ったら
4. 家具の下に身を隠す
5. 揺れが止まらないうちは、揺れが止まるまで待てる
6. 揺れが止まったら、安全な場所まで移動
7. 揺れが止まったら、逃げかたを確認
8. 揺れが止まらないうちは、逃げかたを確認
9. 揺れが止まらないうちは、逃げかたを確認
10. 揺れが止まらないうちは、逃げかたを確認
11. 避難するときは

**② 外にいたら**

1. 高層ビルから遠ざかる
2. 歩道や歩道橋の上を避ける
3. 地下鉄や地下道の出入口付近を避ける
4. 「揺れが止まらないうちは、逃げかたを確認

**③ 車を運転中は**

1. 急ブレーキを踏まない
2. 急ハンドルを切らない
3. 急ブレーキを踏まない
4. 急ハンドルを切らない

日越地区防災会

56

## 7. 支援協力体制の確立

- 地区防災安全士会の結成 現在8名 (平成22年 市内で唯一)
- 中学生の地区防災訓練への参加 (平成21年より)
- 地区関係機関及び団体のネットワーク、連携が機能
- その他

長谷川 日越地区防災安全士会長の講演



57

## 日越小学校での避難訓練補助活動

地震発生直後想定



クラス別 避難状況



体育館への避難完了



58

## 8, 今後の課題(災害予防)

### <防災に対する意識の醸成>

- ・中高生、育児中の女性、元気な高齢者の方など  
コミュニティに常在している人同士の交流や訓練など  
・・・災害弱者から支援者へ
- ・借家(アパートなど)への情報、啓発、広報
- ・見守りネットワーク活動、民生委員、構成員  
⇒各町内会の班単位で
- ・災害の伝承・・・福祉など様々な分野の活動をどう防災に  
結びつけるか。
- ・担い手の育成、確保、発掘・・・防災安全士、消防OB、中学生
- ・NPO及び地元企業との連携など

59

ご清聴、ありがとう  
ございました。

長岡市日越地区防災安全士会

会長 長谷川 弘二

60